

ミリオームハイテスタ 3227

使用できる機種 3227

品番	GP-IBボード	価格	動作環境
W32-3227-R	ラトックシステム製	55,000円	WinXp/Vista/7 Excel2002/03/07/10
W32-3227-N	NI 37		
W32-3227-C	コンテック製		

3227は、日置電機の商標です。

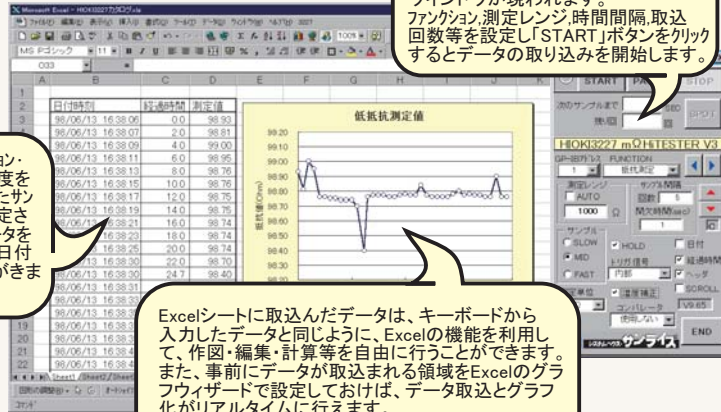
機能



- ・データロガーとしての活用
指定された時間間隔で指定された個数のデータをリアルタイムにExcelシートに取り込みます。
- ・製品検査への活用
被測定物を取り換えながら、個々のデータをExcelシートに取り込みます。

概要

スタートすると、ファンクション・測定レンジ・サンプリング速度を設定した後、指定されたサンプリング時間間隔で、指定されたサンプル数のデータを取込みます。必要なら日付時刻も付加することもできます。



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。Excel上から本アドインを起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現れます。ファンクション・測定レンジ・時間間隔・取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取り込みを開始します。

Excelシートに取込んだデータは、キーボードから入力したデータと同じように、Excelの機能を利用して、作図・編集・計算等を自由に行うことができます。また、事前にデータが取込まれる領域をExcelのグラフウィザードで設定しておけば、データ取込とグラフ化がリアルタイムに行えます。※本アドインに自動グラフ作図機能はありませんので、Excelのグラフウィザードを使用して作図してください。

操作説明

測定器からデータの取込を開始します。「PAUSE」を押した後に、「START」を押すとスポット専用測定モードになります。

測定中は「赤色」、ポーズ中は「青色」、停止中は「灰色」となります。

測定ファンクションを設定します。

3227本体で設定したGP-IBアドレスと同じ値を設定します。

測定レンジをAUTO/MANUALで切換えます。AUTOのチェックを外すとレンジ入力用テキストボックスが現れますからレンジをキーボードから入力します。厳密な値を入力する必要はありません。入力された値に一番近い1つ上のレンジに設定されます。

3227のサンプリング速度を設定します。

チェックすると、測定中、FREE RUNとなり、チェックを外すとHOLDモードになります。

トリガ信号を選択します。

・「内部」は、パソコンからトリガをかけます。
・「外部トリガ」は、測定器リアーTRIG端子からトリガをかけます。測定中はHOLDになります。測定器のROM Ver9.6以降で使用できます。
・「PRINT信号」は、測定器リアーのPRINT端子からトリガをかけます。測定中のFREE RUN/HOLDの選択をHOLDチェックボタンで行います。測定器のROM Ver9.65以降で使用できます。(裏面参照)

Excelシートへ入力する時の単位を指定します。温度測定の際は、無視されます。

コンパレータ機能を使用する場合、テーブル番号を指定します。コンパレータを使用しない場合は「使用しない」に設定して下さい。コンパレータを使用する場合、コンパレータ値のテーブル設定は事前に手動で行って置いて下さい。本プログラムからコンパレータ値の設定はできません。コンパレータ機能を使用して測定を実行すると、測定値が「上限値」以上になった時、測定値が「赤色」表示され、「下限値」以下になった時、「青色」表示されます。



データの取込を一時中止します。もう一度クリックすると、取込を再開します。

データの取込を停止します。

測定中、間欠時間が2秒以上の時、サンプリングまでの残り時間をカウントダウンします。

測定中、取込の残り回数を表示します。

「PAUSE」中、有効なり、クリックする毎にデータを取り込みます。スポット専用測定モードでは、測定開始となります。

Excelシート上のカーソルを左右・上下に移動しデータ取込開始位置を決定します。「Start」ボタンをクリックするとカーソル位置から下方向へデータを取込みます。

データを取込む回数を指定します。但し、「STOP」ボタンでいつでも中断できます。また、何も入力されていないときは、64000回と解釈されます。入力できる最大回数は、64000回です。

データを取込む時間間隔を秒の単位で入力します。ここで入力した時間と実際の時間間隔では若干の差異が発生します。何も入力が無い場合やゼロが入力された場合は、最速でデータを取り込みます。入力できる最大時間は、3600秒です。データに日付時刻を付加します。

データに経過時間(スポットモードでは、連続番号)を付加します。

最初のデータ取込時、測定項目等 のヘッダを付加します。

データの入力と共にシートをスクロールします。

チェックを付けると、測定開始と同時に温度補正をOnにし、チェックを外すと温度補正をOffにします。

アドインを終了します。

スポット専用測定モードの使用法

検査等で被測定物を取り換えながら測定する場合に、このモードを使用します。
「PAUSE」ボタンを先にクリックして、その後「START」ボタンをクリックすると「スポット測定モード」になります。マルチメータの設定が行われた後、「SPOT」ボタンのクリック待ちとなります。「SPOT」ボタンをクリックする毎にデータがExcelシートに取込まれます。この時「SPOT」ボタンをクリックする代わりに「スペース」キーを押しても同様の結果となります。この「スポット専用測定モード」では、「経過時間」の欄には1,2,3...と「連続番号」が入力されます。例えば、被測定物を取り換えながら、個々の被測定物の測定を行う場合に便利です。
「スポット測定モード」を終了するためには、「STOP」ボタンをクリックします。

トリガ信号に「外部トリガ」を使用する場合 3227 ROM Ver9.6以降

測定中、測定器は常に**HOLD**になります。

3227のリアー端子台



トリガ信号



立下りのタイミングで測定器にトリガが架かり、Excelに測定値が入力されます。

トリガ信号に「PRINT信号」を使用する場合 3227 ROM Ver9.65以降

測定中、測定器の「FREE RUN」「HOLD」の選択が可能です。

3227のリアー端子台



PRINT信号



立下りをパソコンが検出し、測定器からその時の測定値を受信します。

立ち上がりを待って、測定値をExcelへ入力します。